

令和8年度高知県立大学公開講座

安部公房と 戦後空間

—「引き揚げ者」から
「内的亡命者」へ—

講師：坂堅太（就実大学）

司会：田中裕也（高知県立大学）

2026年11月14日（土）

時間 13：00～（終了予定16：00）

場所 高知県立大学 永国寺キャンパス

教育研究棟 A101講義室

※（申し込み不要・参加費無料）

出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)

問い合わせ先 高知県立大学文化学部事務室

TEL 088-821-7175



よさこい高知文化祭2026

応援事業



〇企画趣旨

高知県立大学文化学部ではこれまで、日本近現代文学の研究を脈々と今日まで引き継いできました。こうして積み重ねられた研究成果を、広く県民の方々に理解いただくことは大変重要な意義を持ちます。一方で、若者を中心とした文学離れ、といった現象も起こっており、日本文学を読むことの面白さ、楽しさを次世代に繋いでいくこともまた、文化学部には課せられた大きな使命であるといえます。

また、今年は昭和元年（1926年）から数えて満100年を迎える節目の年でもあります。一方、近年は世界のあちこちで紛争が頻発し、再び日常の中に戦争というものが入り込んできています。こうした現状を鑑み、今年度は「安部公房と戦後空間」と題した公開講座を開くことにいたしました。講演者として、安部公房文学の専門家である坂堅太先生（就実大学）をお招きし、ご講演をいただきます。その後、三島由紀夫研究者である本学の田中裕也を交えて、座談会の形式で戦後文学としての安部公房と三島由紀夫の文学について考えてみたいと思います。これを機に、安部公房と三島由紀夫という二人の文学を通じて、多くのみなさまが戦後空間をとらえ直し、今という時代を考えるひとつのきっかけとしていただくことを願っています。

講師紹介

坂堅太 氏（就実大学人文学部 准教授）

専門：日本近代文学（博士 文学（京都大学））

著書：『安部公房と「日本」―植民地／占領経験とナショナリズム』（単著）、
『帝国のはざまを生きる―交錯する国境、人の移動、アイデンティティー』（共著）など

同時
開催

永国寺図書館で本講演に関連した本の展示を行います

- 来場者用の駐車スペースはございません。公共交通機関等をご利用ください。
- 台風等天候状況によっては、開催方法を変更する場合があります。
- <その他について>
 1. 発熱や咳症状など体調不良の場合は、参加をお控えくださいますようお願いいたします。
 2. 室内では水分補給以外の飲食はご遠慮ください。
 3. 車椅子でのご来場など、配慮をご希望の方は事前にお問い合わせください。